

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 6月17日現在

機関番号：12101  
 研究種目：基盤研究（A）  
 研究期間：2010～2012  
 課題番号：22242017  
 研究課題名（和文）明治維新の総括的研究

研究課題名（英文）The comprehensive research on Meiji-Ishin

### 研究代表者

佐々木 寛司 (SASAKI HIROSHI)  
 茨城大学・人文学部・教授  
 研究者番号：80225888

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、明治維新に関する最新の良質な研究成果を体系的に提示し、現在の研究水準と今後に残されている諸課題を明らかにすることで、明治維新史研究の総括を行うことである。その研究成果は全12分科会ごとにそれぞれ1巻にまとめて、全12巻から構成される講座として出版することをめざしており、この研究期間内には第1～5巻までの5冊を刊行した。講座の刊行は現在も継続中である。

研究成果の概要（英文）：This research is to aim the general history of Meiji-Ishin with a means of showing the latest high quality results of systematic research about the Meiji-Ishin, and to clarify the points that we have right now and what problems we will face in future. We made a plan to publish 12 volume set of a lecture series by each 12 subcommittees and we have already published from 1 to 5 in this research term. The publication is continues.

### 交付決定額

(金額単位：円)

|        | 直接経費       | 間接経費      | 合計         |
|--------|------------|-----------|------------|
| 2010年度 | 6,300,000  | 1,890,000 | 8,190,000  |
| 2011年度 | 7,200,000  | 2,160,000 | 9,360,000  |
| 2012年度 | 4,000,000  | 1,200,000 | 5,200,000  |
| 年度     |            |           |            |
| 年度     |            |           |            |
| 総計     | 17,500,000 | 5,250,000 | 22,750,000 |

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：明治維新・幕末政治・維新政権・近代国家・立憲制・外交・地域社会・経済過程

### 1. 研究開始当初の背景

明治維新が歴史学の本格的な研究対象とされたのは1920年代後半であり、明治維新史研究は現在まですでに80年以上という長い研究歴を有してい

る分野である。そして、戦後半世紀以上が経過するなかで、日本を取り巻く国際的環境も国内の政治・社会情勢も大きく変化し、明治維新史研究が担うべき課題もそれに対応して変質し、隣接学問分野との協力をも含めて広範な分野におけ

る膨大な研究が蓄積されてきた。こうした研究の総括を試みようとするのが本研究である。

本研究の学術的背景は、次のようになる。明治維新史研究を総括する試みとしては、これまで1958～59年に平凡社『明治維新史研究講座』（全6巻のうち69年に別巻刊行）が、2000～01年には吉川弘文館『幕末・維新論集』（全12巻）が、それぞれの時代状況のなかで刊行された。前者は、通史的構成の下に1930年前後から50年代後半にいたる「あらゆる史観・立場」の研究を、できるだけ「網羅」して紹介し問題点や論点を明らかにしようとした研究史の整理である。後者は、研究史軽視の「風潮」に警鐘を鳴らし「世界史を展望した」明治維新史の研究の発展に寄与することを意図して、テーマごとに各巻を編成しそれに関係する既発表論文を集成している。両者とも体系的ではあるが、視点が研究史の総括のみに向けられており、最新の研究成果を取りまとめたシリーズではなかった。また、『明治維新史研究講座』の刊行前後に、御茶の水書房『明治史研究叢書』（全12巻）が刊行されたが、この叢書には体系的の欠如という大きな欠陥があった。

そうしたなかで明治維新史研究の動向は、1980年代に入ると新しい視点にもとづいた、また新たな対象を見出した潮流が続々と輩出し、すぐれた研究が数多く公表され現在に至っている。しかし、そこでは個々の研究水準の向上とは裏腹に、歴史を総体的に見据える視座が薄くなり、研究の蓄積はかえって明治維新史像を捉え難くしているようでもある。このように明治維新史研究が混沌とした状況の中に置かれていることから、新たな総括を行って今後の課題を提起することが求められているのが現状であった。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、明治維新に関する最新の良質な研究成果を体系的に提示し、現在の研究水準と今後に残されている課題を明らかにするという、明治維新史研究の総括である。その際、政治・外交・経済・社会・文化・思想・宗教等の幅広いジャンルに目を配り、欧米との関係にとどまらず東アジア社会の変動のなかで、明治維新がどのように準備され展開されていったのかを究明するという視角を設定する。また、対象とする時期については、ロシアと

の関係が顕著となる19世紀初めを始点として、19世紀末の日清戦争を終点とする。すなわち、19世紀史という長いスパンで明治維新を再検討することによって、その見直しをはかり新たな歴史像を創り出す契機を提供することを意図するものである。

## 3. 研究の方法

研究代表者と研究分担者11名はすべて、明治維新史研究においてすでに多くの業績を発表してきた第一線に立つ研究者である。研究を進めるにあたっては、研究代表者と研究分担者による研究委員会を設け、そのもとに12の分科会を設置し、各自がそれぞれ専門とするジャンルに関わる分科会を担当する。それらの分科会にはそれぞれのテーマに最も相応しい研究者に外国人を含めて参加をお願いしている。第1分科会は8名、第2分科会は6名、第3分科会は7名、第4分科会は8名、第5分科会は8名、第6分科会は7名、第7分科会は8名、第8分科会は9名、第9分科会は8名、第10分科会は7名、第11分科会は8名と、11の分科会に所属する研究者は外国人6名を含む総計84名に及んだ。

本研究の最終的な目標は、全12分科会の研究成果をそれぞれ1巻ごとにまとめて、全12巻による講座として出版することである。したがって、研究期間内において初年度は先ず第1分科会から第8分科会を、次年度には第9分科会から第12分科会を立ち上げ、それぞれ研究報告会を開催し、最終年度には各分科会が刊行をめざしての研究活動を行う。各分科会の概要は次のようになる。第1分科会～5分科会までは通史的構成に基づき、19世紀の初頭から末期までの時期について政治史を基軸としてテーマを設定し、第6～11分科会は第1～5分科会では触れ得なかった事象をジャンル別に取り上げ、第12分科会は総体的分析とする。第1分科会は対象時期を1800～52年とした「世界史のなかの明治維新」、第2分科会は1853～67年で「幕末政治と社会変動」、第3分科会は1868～71年で「維新政権の成立」、第4分科会は1872～81年で「近代国家の形成」、第5分科会は1882～95年で「立憲制と帝国への道」、第6分科会は「明治維新と外交」、第7分科会は「明治維新と地域社会」、第8分科会は「明治維新の経済過程」第9分科会は「明治維新と女性」、第10分科会は「明治

維新と思想・社会」、第1分科会は「明治維新と宗教・文化」、第2分科会は「明治維新とは何か」とする。

#### 4. 研究成果

『講座明治維新』として12の分科会ごとにその研究成果を1巻にまとめて刊行を開始した。現段階において、第1～5分科会の研究成果として5冊が刊行され通史的研究が完成した。

通史的研究の具体的内容は、以下の通りである。

(1) 『講座・明治維新1 世界史のなかの明治維新』(この巻では、明治維新の前史として、18、19世紀交わりあたりからペリー来航直前までの東アジア世界における日本の位置と、さらに国内政治の展開過程を対象として、明治維新の前史としての時代を分析した。)

(2) 『講座・明治維新2 幕末政治と社会変動』(この巻では、1853年のペリー来航から1967年の王政復古までの幕末政治史と社会変動を対象として、通史的に考察した。)

(3) 『講座・明治維新3 維新政権の創設』(この巻では、1868年に勃発した戊辰戦争から1871年の廃藩置県までの過程を、維新政権の創設過程として再構成した。)

(4) 『講座・明治維新4 近代国家の形成』(この巻では、廃藩置県後から1881年の明治14年の政変までを対象とし、日本における近代国家の形成過程として位置づけた。)

(5) 『講座・明治維新5 立憲制と帝国への道』(通史編の最終巻であるこの巻では、日清戦争までを対象とし、国民国家の完成と帝国主義への変転を検討した。)

今後は第6から第12分科会までの成果として、さらに出版をすすめていくこととする。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[図書] (計5件)

① 明治維新史学会編『講座 明治維新』第5巻、責任編集者：原田敬二・飯塚一幸『立憲制と帝国への道』、有志舎、2012年、257頁。ISBN 978-4-903426-64-8

② 明治維新史学会編『講座 明治維新』第4巻、責任編集者：勝田政治・中川壽之

『近代国家の形成』、有志舎、2012年、296頁。ISBN978-4-903426-54-9

③ 明治維新史学会編『講座 明治維新』第3巻、責任編集者：松尾正人・佐々木克『維新政権の創設』、有志舎、2011年、312頁。ISBN978-4-903426-48-8

④ 明治維新史学会編『講座 明治維新』第2巻、責任編集者：青山忠正・岸本覚『幕末政治と社会変動』、有志舎、2011年、296頁。ISBN978-4-903426-42-6

⑤ 明治維新史学会編『講座 明治維新』第1巻、責任編集者：木村直也・三谷博『世界史のなかの明治維新』、有志舎、2010年、280頁。ISBN978-4-903426-37-2

[その他]

ホームページ等

明治維新史学会：講座

<http://www.ishinshi.jp/wordpress/?cat=24>

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

佐々木 寛司 (SASAKI HIROSHI)

茨城大学・人文学部・教授

研究者番号：80225888

##### (2) 研究分担者

松尾 正人 (MATSUO MASAHITO)

中央大学・文学部・教授

研究者番号：00157265

奥田 晴樹 (OKUDA HARUKI)

立正大学・文学部・教授

研究者番号：00283086

勝部 眞人 (KATSUBE MAKOTO)

広島大学・文学研究科・教授

研究者番号：10136012

勝田 政治 (KATSUTA MASAHARU)

国士舘大学・文学部・教授

研究者番号：10276446

羽賀 祥二 (HAGA SHOJI)

名古屋大学・文学研究科・教授

研究者番号：30127120

青山 忠正 (AOYAMA TADAMASA)

佛教大学・歴史学部・教授

研究者番号 : 30159305

原田 敬一 (HARADA KEIICHI)  
佛教大学・歴史学部・教授  
研究者番号 : 70238179

小林 丈広 (KOBAYASHI TAKEHIRO)  
奈良大学・文学部・教授  
研究者番号 : 60467397

木村 直也 (KIMURA NAOYA)  
産業能率大学・経営学部・教授  
研究者番号 : 50192018

高木 博志 (TAKAGI HIROSHI)  
京都大学・人文科学研究所・教授  
研究者番号 : 30202146

西澤 直子 (NISHIZAWA NAOKO)  
慶應義塾大学・付置研究所・教授  
研究者番号 : 40407151

森田 朋子 (MORITA TOMOKO)  
中部大学・人文学部・教授  
研究者番号 : 80293108